

⑦ 常葉町のれきし

時代	そのころのようす
<p>はじまり</p> <p>日本の</p> <p>武士の世の中</p> <p>明治</p> <p>大正</p> <p>昭和・平成</p>	<p>木のみや動物をとり、石やねん土でどうぐを作って生活していた。</p> <p>城下町<sup>じょうか</sup>，相馬かい道の宿場町<sup>しゅくば</sup>としてさかえるようになる。</p> <p>三春はんのさしずをうけるようになり，はんの馬が育てられ馬市<sup>うまいち</sup>もたち，常葉地方で育った馬は「三春ごま」の名で知られるようになる。</p> <p>三春県<sup>いわさき</sup>から磐前県となり，いろいろな人々の考えをいかしてせいじがおこなわれた。町内に4つの小学校ができた。</p> <p>葉たばこのさいばいがさかんとなり松川葉の生産地として全国にほこれるようになる。</p> <p>阿武くま山<sup>あぶ</sup>けいの開発<sup>かいはつ</sup>が進み，ぼくちくや林業<sup>りんぎょう</sup>などもさかんになる。</p> <p>「カブトムシ自然王国」ができ，多くの観光客<sup>かんこう</sup>が町をおとずれるようになる。</p>



【常葉町史による】